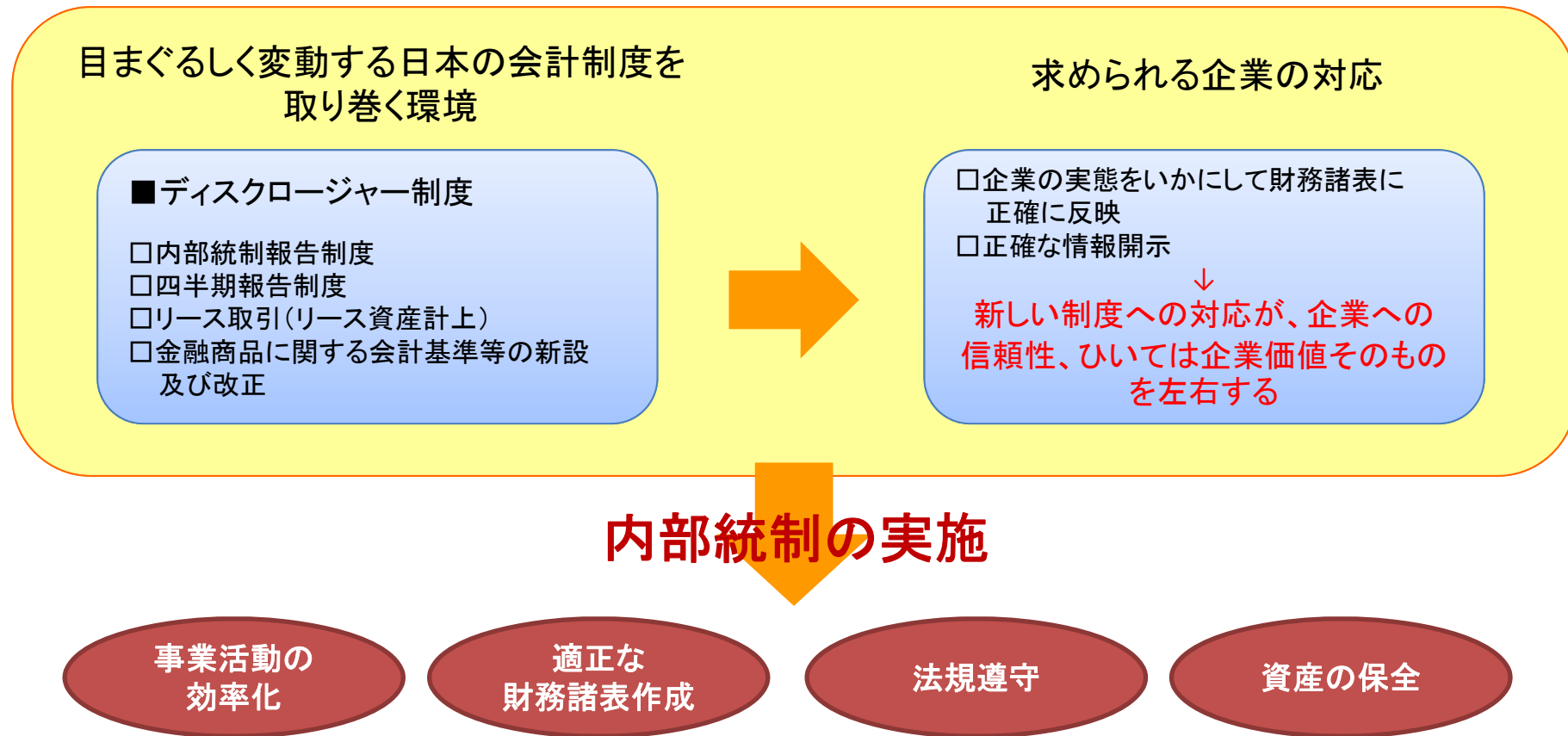


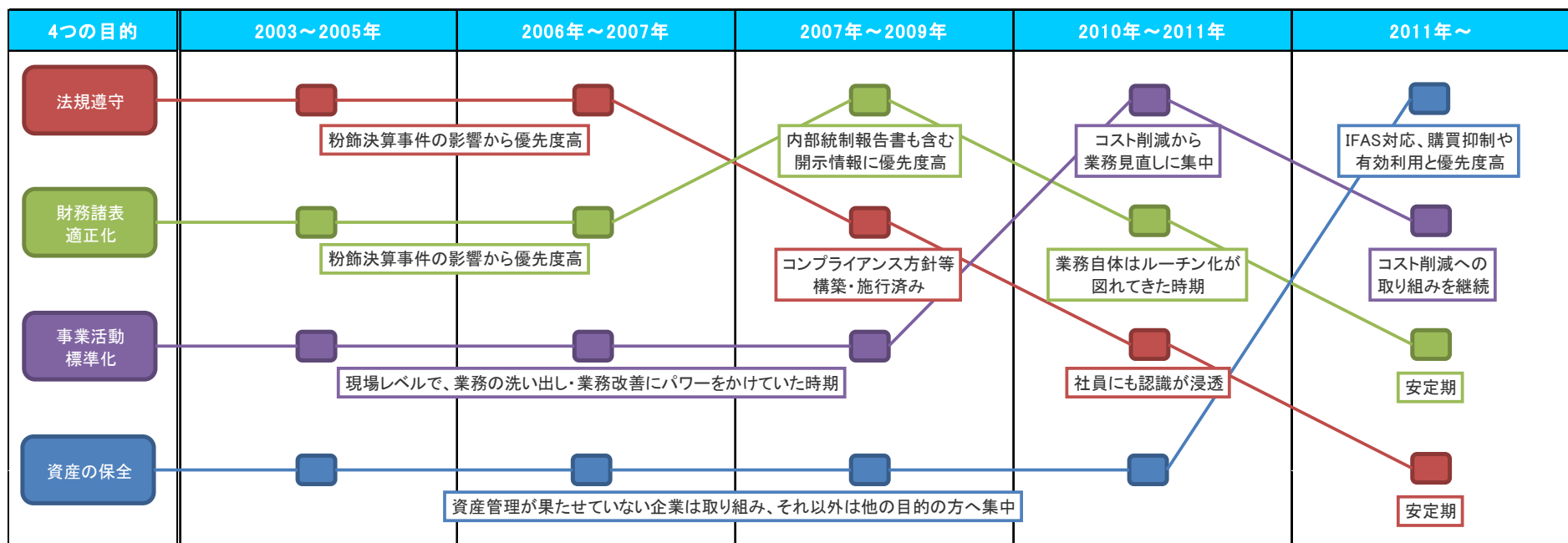
【監査法人が指摘する背景 マクロ環境と企業の対応】



- ① 社内で各業務処理をするに当たってのチェック機構であり、具体的には職務分掌と職務権限により記述された内容により達成
- ② 意識的、無意識的なミス、誤謬、不正を未然に防ぎ、あるいは早期に発見し、以って社内のデータの正確性、安全性を保証するとともに会社財産の保全、効率的運用を図るもの

# 【内部統制における4つの目的優先順位 変動推移】

内外の動き／年	2003～2005年	2006年～2007年	2007年～2009年	2010年～2011年	2011年～
目ぐるしく変わる 経済環境	・改正商法 施行 ・新会社法 成立	・新会社法 施行 ・金融商品取引法(J-SOX法) 成立	・金融商品取引法(J-SOX法) 施行 ・国際会計基準適用に向け検討 ・リーマンショックで世界同時不況 突入	・円高進行で迫られた金融緩和 ・国際会計基準任意適用	・国際会計基準同等の基準変更 ・2012年国際会計基準強制適用 の検討 ・東日本大震災発生
企業の動き	□法施行直前 J-SOX施行に向けた取り組み準備に 追われた	□J-SOXに対する設備等強化 監査法人等、コンサルティングの適 用、IT設備投資全盛	□J-SOX対応に翻弄 内部統制にある4つの目的を手探りで 取り組む	□企業財政圧迫 内部統制の実施から必要以上に力を 入れていた事に気付く	□現実管理路線へ軌道修正 地に足を付けるべく、無駄な業務、コ ストを発生させない管理を強化



各企業によって内部統制の目的、優先順位は様々だが、多くは企業に与える影響度から取り組みをしている傾向がある。しかし、当初J-SOX法の施行から時間が経過し、現在の内部統制に基づく実務的な取り組みは当初の優先順位から変わっている事に気がつく。

法規遵守や財務諸表適正化への取り組みは一度運用方針が決定し、計画に則っていれば大きな変更はない。事業活動標準化、資産の保全は内部統制目的は勿論のこと、経営活動としての観点から変動要素がある為、今尚、改善に取り組む企業が多い。

## 【対処法に陥りやすいよく聞くお話】

ひとまず、  
カウントしないと…

- 通常業務の中では時間が足りない！
- 協力してもらおう人手が不足している！
- ノウハウ補完やツールの準備等  
予算が足りない！

負のスパイラルに陥りやすい

対処フローになりがち

「行為の目的化」となる

**本来の目的・成果に沿った  
資産管理になっていない**



資産管理の  
透明性を上げろ！

例えば…

- 正確な情報開示が株主への信頼を得る！
- 内部統制に準じた経営が我が社の課題！
- 財務体質を改善し、無駄の徹底排除、有効  
資源への投資増加！

□まとめ

なぜ、経営トップや監査法人が指摘するのか、その背景にはリアルに起きている経営課題があるからと推測される。

指摘する事の真意が現場サイドに落ちていないと、行為の目的化になりやすく、結果として組織が求める資産管理になっていない傾向がある。

あるべき姿として、対処フローでなく備えとしての管理が資産管理には求められると考える。